

めざせ世界遺産登録 あなたも参加団体で活動しませんか？

北鎌倉の景観と賑わいを次代へ

北鎌倉まちづくり協議会



平成10年、鎌倉市のまちづくりコンサルタント3名が中心になって山ノ内にもちづくり組織を立ち上げました。今や北鎌倉の顔となった「匠の市」「匠展」を主催、「市」は年2回春秋に円覚寺・東慶寺・浄智寺の門前で、「展」は年1回秋に山ノ内公会堂で、合計65名程の作家が自作を展示し、「市」の方では即売も行います。

まちづくり活動としては、JR側と街道沿いに景観を形成する大木8本や白モクレンを残すよう「マンション計画」に働きかけ、「景観地区」策定後には鎌倉街道沿いの線路側と円覚寺・明月院踏切間の建物高さを一律12m以下にするよう働きかけました。「北鎌倉・洞門山開発問題」では1ヶ月に21000人の署名を集める等保全運動を展開し、全面保全に漕ぎ着けました。

昨年12月の世界遺産連続シンポジウム「北鎌倉の文化資産と周辺のまちづくり」では代表の坂田さん等が参加して、寺院群と街・山並が調和して在る北鎌倉に住む人たちの環境に対する信念・熱意がまちの景観を守ってきたお話を頂きました。入会等のお問い合わせは事務局・斉藤さん ☎0467-22-4693 まで。

世界遺産登録と玉縄城 500 年祭

玉縄自治町内会連合会



500年祭横断幕前での田中会長

玉縄地域は、平成24年11月に地域が一体となり、鎌倉市と協働して「玉縄城築城500年祭」を実施します。500年祭の実行委員長は連合会の田中八郎会長です。

残念ながら、玉縄地域には玉縄城址も含めて世界遺産登録候補は何もありませんが、実は玉縄と鎌倉の世界遺産登録とは極めて深い繋がりがあります。

1512年に北条早雲が築城後、約100年間に亘って玉縄城を本拠とした玉縄北条氏が、玉縄衆を指揮して戦火で焼失した鶴岡八幡宮を再興し、いにしへの「武家の古都・鎌倉」を守護したことは、ほとんどの鎌倉市民に知られていない史実です。

11月12日(土)には玉縄小学校で第18回「玉縄まつり」が開催されます。鎌倉世界遺産登録推進協議会もブースを設けてPRに努めます。玉縄自治町内会連合会も応援します。玉縄まつりのお問合せは、実行委員会の石井さん ☎090-1613-4486 まで。

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第20回 永福寺跡はどんな遺跡？

永福寺跡は、奥州藤原氏との戦いで亡くなった人々の怨霊を鎮めるために源頼朝が建てた寺院の遺跡です。頼朝が奥州合戦の際に、平泉で見た寺院の威容に感銘を受け、これにならって建立したといわれています。『吾妻鏡』には永福寺の工事の様子が詳しく書かれており、頼朝がしばしば視察に訪れたこと、その頼朝の命を狙う暗殺者が土石を運ぶ労働者の中に紛れ込んでいたことなど、興味深いエピソードを知ることができます。

中心となる堂は、平泉中尊寺の二階大堂(大長寿院)に倣った二階建ての建物であったため、「二階堂」と呼ばれました。このため付近一帯の地名も「二階堂」となり、現在に至っています。二階堂の左右には阿弥陀堂・薬師堂が建ち、その前には池を中心とした壮大な浄土庭園が広がっていました。

頼朝以降も代々の将軍が訪れて、法要や和歌会などが催され繁栄しましたが、たびたび火災に遭い、応永十二年(一四〇五)の火災の後には再建されないまま廃絶してしまっただけです。しかし、近年の数度の発掘調査によって、遺構や遺物が地下に良好な状態で保存されていたことが分かり、往時の繁栄ぶりがあらためて確認されています。